



日和山

新潟市立日和山小学校
学校便り 第 120 号
令和7年 12月 16日

成長を言葉で伝え、エネルギー源であふれる12月に♪

教頭 大滝 和子

12月。1年を振り返る季節です。2025年は、みなさんにとってどんな年でしたか。学校での活動を振り返ると、小さな一步の積み重ねの中に、子どもたちの確かな歩みを感じています。

今年読んだ本の中に、お気に入りの一冊があります。『『くうき』が僕らを呑みこむ前に』(児童書)という本です。学校でも社会でも、人が集まれば、「なんとなく周りに合わせよう」「なんとなくそうしなければ」という、見えない『くうき』が生まれることがあります。この本は、こうした『くうき』という力に向き合いながら、自分らしく考え、行動していくために大切なことを、子どもにも大人にも分かりやすく伝えてくれます。「なぜそう思うのか」「どうしてそうしたいのか」を自分の言葉で伝えることの意味を、丁寧に語りかけてくれる一冊です(大人にもおすすめです)。

この本の中で、大切なこととして示されている言葉があります。それは、「人の意見を聞く、自分でよく考える、自分の意見を言う」という言葉です。この言葉は、とてもシンプルで、特別なことではないように思えます。しかし、見えない『くうき』に流されず、自分らしく生きるための土台であり、こうしたシンプルなことの積み重ねこそが大切なだと、改めて感じさせられました。日々の学校生活の中で大切にしている学びの姿とも、重なっているように思います。

授業中、友達の考えを聞いたあと、しばらく考えてから「私はここが少し違うと思う」と、自分の考えをていねいに伝えようとする姿。友達とトラブルがあったときに、「さっきはこう思ったんだけど、ここがよくなかったよ。ごめんね」と、自分を見つめ直す姿。「友達からコツを聞いて何度も練習したら、生まれて初めて逆上がりができた!」と、笑顔で教えてくれる姿。こうした子どもたちのまっすぐ一生懸命な姿は、まさに「人の意見を聞く、自分でよく考える、自分の意見を言う」姿そのものです。

今年度、日和山小学校では学校教育ビジョンを見直し、「かんがえる力」「つながる力」「ひろげる力」の育成に取り組んできました。日々の学校生活の中で、これら三つの力が確かに育っていることを、子どもたちの姿から感じています。

さて今年も残りわずかとなりました。この1年を振り返り、「どんなことをがんばったかな」「どんなふうに成長できたかな」と、心の中で静かに思い返してみてください。自分の歩みに目を向ける時間は、子どもにとっても大人にとっても、とても大切なひとときです。そして、その気付きやがんばりを、ぜひ言葉にして伝え合ってみてください。2025年に一人一人が積み重ねてきた歩みは、言葉にして伝えることで、次への確かな力となり、その力は、必ず来年への「エネルギー源」になります。

2026年へとつながる「エネルギー源」があふれる、ステキな12月になりますように。

最近、朝、玄関に登場するおともだちです♪



♣ 笑顔あふれるクローバーランド♣

児童会担当 佐久間 甲

クローバーランドでは、3年生以上の各クラスが工夫を凝らして来場者を楽しませるお店を開きました。ゲームや体験型のコーナーが多く設けられ、来場者を楽しませていました。どのクラスもテーマを決め、それに合わせた飾り付けや内容を考え、来場者が楽しめるような工夫が随所に見られました。クラスごとに役割分担し、みんなで協力して運営していたことも印象的でした。ゲームコーナーでは、来場者が挑戦しやすいように難易度を調整したり楽しい特典を準備したりして、飽きさせない工夫がされていました。さらに、児童たちは祭りの準備から当日の運営まで、責任をもって取り組んでおり、その姿勢がとても素晴らしいです。特に、1年生は初めてのクローバーランドということで、わくわくした表情で参加し、笑顔があふれていました。クローバーランドは、児童たちの成長と団結を感じることができる心温まる素晴らしい祭りとなりました。楽しく思い出深い時間が共有できたことが、何よりも大きな成果だと思います。

♪ 心を一つに歌いきった にじいろ音楽祭

4年担任 斎藤 隆

秋のさわやかな空気の中、4年生は「にじいろ音楽祭」に出場し、心を一つにしてすばらしい歌声を響かせました。歌った曲は『学校坂道』と『チャレンジ』。どちらも、今の子どもたちにぴったりのすてきな歌です。

『学校坂道』は、まるで日和山小学校の風景を歌っているような曲です。坂道をのぼって学校へ向かう子どもたちの姿や、夕やけの中で笑い合う友達の姿が重なります。子どもたちは「強弱を考えて歌う」という目標を立て、やわらかい声の重なりやハーモニーを意識して歌いました。「ハーモニーの部分がとても上手に歌えた。」「つられないで歌えた。」と、自分たちでも手ごたえを感じていました。

一方、『チャレンジ』では、曲名のとおり挑戦する心を全身で表現しました。「チャレンジ！の“ジ”をはっきり歌う」「体を揺らしてリズムを感じる」など、細かな工夫を積み重ねてきました。本番では、「ステージに上がったときは緊張したけれど、歌い始めたら気持ちよくなった。」「練習よりも大きな声で歌えた。」と、充実した表情で振り返っていました。

他校の発表からもたくさんの刺激を受けました。「“世界を旅する音楽室”の手話と歌がそろっていてすばらしかった。」「声がきれいで団結力があった。」「振り付けがすごかった。」と感想を話し合い、音楽の力や仲間との協力の大切さを改めて感じることができました。